

【育 成 光 線 農 法】

育成光線放射装置を使って作物を生産することを育成光線農法と呼ぶことにしたので、その作業手順をまとめました。

A 種子の DNA を活性化させる作業

育成光線放射装置を通ると水は瞬時に水は 0,276nm という極微小な水分子になります。又、同時に一秒間に 100 兆回という超微細な振動エネルギー体になります。この水分子は植物の細胞膜を通過し、DNA を活性化させ作物を元気に育てることが出来ることがわかりました。

そのやり方は次の通りです

育成光線放射装置を使って容器に育成光線水を貯めその水に種を 30 分程度浸漬（袋ごとでも可です）することで、タネは自然と活性化されます。

最近のように地球環境が不安定な時代には極めて重要な作業と考えています。

この簡単な作業をするだけで作物を安定的に栽培することが可能になります。その為にとどの作物も必ずやりましょう（育苗箱で苗作りの時も同じようにして下さい）

尚、この方法は家庭菜園から大農場に至るまで同じです!!

B 播種、定植後の処理について

- ① 発芽後は時おり散水してください。（最低 1 回はしておくこと）
- ② 定植した作物には、定植後に必ず散水してください。散水しておくことで土壤がマイナスイオンの環境になることで、病虫害の予防的な効果があります。尚、やむをえず農薬を使用するときは育成光線水で希釈することで、低農薬栽培が可能です。

まとめとして

この育成光線農法とは、装置から放射される 4～14 ミクロン領域の育成光線が、作物の DNA を活性化させ細胞を元気づける結果として、作物の生育を助け、品質の向上を可能にします。また育成光線水は極微細な水分子になるために、結果としてマイナスイオンを帯電したマイナスイオン水となります。このマイナスイオン水はプラスイオンを帯電して生きている病虫害が生息できない環境にすることと同時に、土壤中の有効微生物が活性化することで、健全で高品質な作物が出来ます。以上のことから

この農法を **育 成 光 線 農 法**と呼ぶことにしました!!